

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料) 大阪証券取引所市場第二部 (証券コード4462) 電子公告により行う。 なお、電子公告は、当社のホームページに掲載し ており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.unicon.co.jp/
上場証券取引所 公告方法	

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

株主ご優待情報

弊社では、株主の皆様のご厚情に対するささやかな感謝のしるしといたしまして、株主優待制度を実施しております。

- 対象 決算期日(3月31日)時点の当社株主名簿に記載された500株以上保有の株主の皆様
- 内容 株主総会終了後(6月末~7月初旬)、次の基準の保有株式数に応じて、グルメギフトを贈呈させていただきます。

保有株式数	優待内容
500株以上1,000株未満	グルメギフト(3,000円相当)
1,000株以上	グルメギフト(10,000円相当)

インターネットホームページアドレス
<http://www.unicon.co.jp/>



第73期

中間報告書

平成22年4月1日~平成22年9月30日

石原薬品株式会社

株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成22年9月30日をもって、第73期の上半期を終了いたしましたので、ここにその事業の概況をご報告申し上げます。

今後とも株主の皆様のご期待にお応えできますよう、業績の向上に全力を傾注する所存でございますので、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成22年12月

代表取締役社長 **竹森莞爾**

事業の概況

上半期におけるわが国経済は、新興国の需要回復や国内の各種経済対策の効果などにより一部に景気の持ち直しの動きが見られたものの、欧州など海外経済への懸念や急激な円高の進行、株安などの不安材料から景気の先行きに不透明感が高まりました。このような状況下において、売上高は7,272百万円（前年同期比17.4%増）、営業利益は566百万円（前年同期比168.4%増）、経常利益は578百万円（前年同期比156.5%増）となりましたが、投資有価証券評価損及び資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額の計上により、四半期純利益は129百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

セグメント別の業績の概要 (電子関連分野)

電子関連分野が対応する電子部品業界は、薄型テレビ、パソコン、携帯電話などアジア市場向けデジタル機器需要が伸び電子部品の拡大が続きましたが、欧米や日本の景気先行きの不透明感が強まる中、薄型テレビやパソコンの在庫が積み上がりつつあるとの見方が広がり、受注に一部一服感が出ました。

①金属表面処理剤及び機器等

電子関連分野のこのような状況下、めっき液の需要は第2四半期も海外市場を中心に好調に推移しました。特にバンブ対応めっき液は、フリップチップ化が加速し、国内、海外とも好調に推移しました。一方、液晶関連のCOF対応めっき液も台湾、韓国を中心に好調に推移しましたが、一部で在庫調整の動きの影響も見られました。また、ICリードフレーム外装めっき液は、半導体のリードレス化の流れと海外移管の影響により、国内需要は低調に推移しましたが、台湾、アセアン、中国での需要は回復傾向にあり、これらの地域では対応する外装めっき液は好調に推移しました。一方、化成処理液自動管理装置及び試薬は、景気回復によりプリント基板関連、液晶関連部材関連で設備投資が活発化し、また、現状のライン稼働率も向上し装置、試薬、有償定期点検等の需要は伸びました。この結果、金属表面処理剤及び機器等の売上高は、3,407百万円（前年同期比33.3%増）となりました。

②電子材料

電子材料のニッケル超微粉は、需要先のセラミックコンデンサの生産は回復基調にありましたが、納入数量減と単価下落により前年同期を下回りました。一方、機能材料加工品は、対応する半導体製造装置業界、液晶製造装置業界とも回復を見せ、各業界向けの部品需要が伸び、販売は回復基調で推移しました。この結果、電子材料の売上高は、864百万円（前年同期比0.3%増）となり、電子関連分野全体の売上高は、4,272百万円（前年同期比25.0%増）となりました。

(自動車用品分野)

自動車用品分野は、エコカー購入支援策の効果から新車販売台数、装着用品など好調に推移しました。しかし、補修剤市場は、軽微なスリキズを補修しない傾向など市場規模の縮小が続きました。このような状況下、自動車用エアコンフィルターが標準装備となりフィルター交換需要が増加する中、ディーラーでの交換時にエアコンの洗浄を同時施工するビジネスの提案、促進を積極的に行った結果、エアコン洗浄剤が伸び、回復基調にある溶接用薬剤等を合わせた自動車用品分野の売上高は、829百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

(工業薬品分野)

工業薬品分野は、国内建築需要の低迷が続く中、対応する鉄鋼分野で中国、アジア諸国向け鋼材輸出の好調さに加え、エコカー購入支援策の効果による新車販売台数の伸び、猛暑によるエアコンの販売の伸びによる鋼板需要があったこと、石油化学分野でも好調な輸出に加え、自動車、電機など関連分野の回復により需要が堅調に推移したことなどもあり、鉄鋼市場向け薬剤、塩触媒及び産廃処理場向け薬剤が伸び工業薬品分野の売上高は、2,170百万円（前年同期比8.6%増）となりました。

なお、通期の業績予想については、下表のとおりとなります。

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益 円 銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	14,130	10.2	980	68.1	1,030	63.1	520	△13.9	74.97

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当第2四半期末 (平成22年9月30日)	前期末 (平成22年3月31日)
資産の部			
流動資産		8,625,142	8,925,056
固定資産		7,630,799	7,087,177
資産合計		16,255,942	16,012,233
負債の部			
流動負債		3,199,097	3,050,307
固定負債		526,329	425,194
負債合計		3,725,427	3,475,501
純資産の部			
株主資本		12,812,406	12,787,173
資本金		1,447,280	1,447,280
資本剰余金		1,721,281	1,721,281
利益剰余金		10,132,210	10,106,925
自己株式	△	488,365	488,313
評価・換算差額等	△	281,891	250,442
純資産合計		12,530,515	12,536,731
負債純資産合計		16,255,942	16,012,233

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当第2四半期累計 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	前第2四半期累計 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
売上高		7,272,020	6,195,448
売上原価		5,258,395	4,555,186
売上総利益		2,013,624	1,640,262
販売費及び一般管理費		1,447,223	1,429,254
営業利益		566,401	211,007
営業外収益		46,985	43,784
営業外費用		34,666	29,136
経常利益		578,720	225,654
特別利益		199	850
特別損失		253,092	1,865
税引前四半期純利益		325,827	224,639
法人税等		196,497	79,689
四半期純利益		129,330	144,949

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

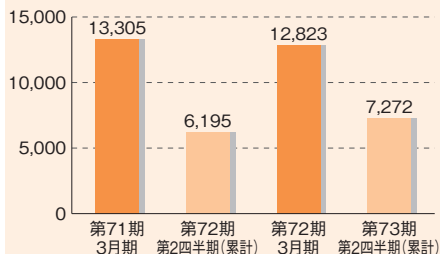
(単位：千円)

科目	期別	当第2四半期累計 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	前第2四半期累計 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		492,438	705,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	258,887	205,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	90,596	148,270
現金及び現金同等物に係る換算差額	△	13,904	12,856
現金及び現金同等物の増減額		129,049	363,945
現金及び現金同等物の期首残高		3,738,322	3,033,613
現金及び現金同等物の四半期末残高		3,867,372	3,397,559

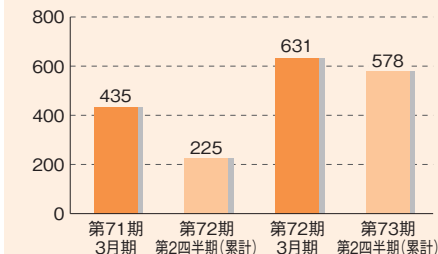
財産及び損益の推移

業績の推移

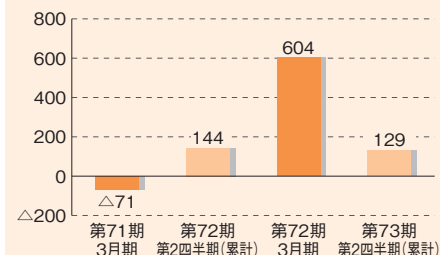
●売上高 (百万円)



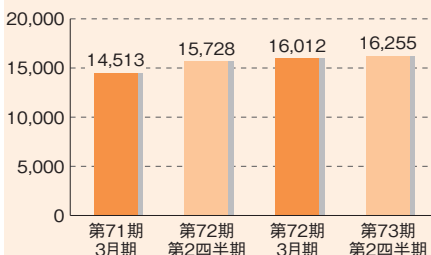
●経常利益 (百万円)



●純利益 (百万円)



●総資産 (百万円)



事業分野別売上高

(単位：千円)

事業分野	当第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)		前第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額	構成比	金額	構成比
電子関連分野	4,272,346	58.8%	3,417,775	55.1%
(内訳) 金属表面処理剤及び機器等	3,407,732	46.9	2,555,883	41.2
電子材料	864,613	11.9	861,892	13.9
自動車用品分野	829,074	11.4	778,863	12.6
工業薬品分野	2,170,599	29.8	1,998,808	32.3
総合計	7,272,020	100.0	6,195,448	100.0

会社の概況 (平成22年9月30日現在)

■会社概要

商号	石原薬品株式会社 ISHIHARA CHEMICAL CO., LTD.	資本金	14億4千7百28万円
創業	明治33年4月15日	従業員数	186名
設立	昭和14年3月3日		

主要な事業内容

区分	主要品目
金属表面処理剤及び機器等	錫及びハンダめっき液、化成処理液自動管理装置等
電子材料	電子材料、セラミックス、エンジニアリングプラスチック等
自動車用化学製品等	つや出し剤、塗装補修コンパウンド、洗浄剤、消臭・除菌剤、溶接スパッター付着防止剤等
工業薬品	酸、アルカリ、触媒、無機化合物等

■事業所

本社	神戸市兵庫区西柳原町5番26号
東京支店	東京都台東区台東2丁目26番11号
滋賀工場	滋賀県高島市今津町北生見古野24番地の1

■役員

代表取締役社長	竹森莞爾	常勤監査役	福田英章
代表取締役専務取締役	時澤元一	常勤監査役	山島一延
常務取締役	松村伊佐雄	監査役	菱田正登
常務取締役	浅野真司	監査役	岡本茂登
取締役	酒井保幸		
取締役	大竹祥司		
取締役	工藤富雄		

■株式の状況

① 発行可能株式総数	15,650,000株
② 発行済株式総数	7,460,440株
③ 株主数	1,736名
④ 単元株式数	100株

⑤ 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
石原薬品取引先持株会	463	6.6
日本生命保険相互会社	379	5.4
株式会社三井住友銀行	346	4.9
石原薬品従業員持株会	237	3.4
株式会社みずほコーポレート銀行	223	3.2
株式会社池田泉州銀行	219	3.1
第一生命保険株式会社	211	3.0
大阪中小企業投資育成株式会社	209	3.0
川村邦子	156	2.2
岡田幸能	145	2.0

(注) 1. 当社は平成22年9月30日時点において、自己株式524,091株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。